

はじめて出会う 聴覚障害

諏訪晃一（松原市立恵我南小学校）

※発表内容は全て個人の見解であり組織を代表するものではありません。

諏訪晃一：自己紹介

大学院生時代に松原市の総合学習に
出会う。R4年度より現職。

R5年度にoioiさんに出会う。

大阪公立大学客員研究員

「はじめて出会う聴覚障害」

→障害と出会うのではなく
人と出会う

障害と出会うのではなく 人と出会う

相手の立場に立って、
自分のこととして考えるため

※「障害をもつとたいへんだ/自分ではなくてよかった」ではない

※「自分は差別なんかしないから関係ない」ではない

障害と出会うのではなく 人と出会う

「その人の自分自身のお話」を通して
本当に大切なことは何かを考える
ため。

→個別的具体的な話から普遍的な価値へ

※「人権課題のカタログ」を見るのではない

oioiさんとの出会い

本校では、R5年度の芸術鑑賞をきっかけに、oioiさんとの交流が始まりました。主に3年生でoioiさんのお話をきかせていただいたり、ワークショップをしていただいたりしています。



一般社団法人

手話エンターテインメント発信団

Oioi

[オイオイ]

伝えていただいたメッセージを写真とともに掲示し、必要なときに振り返りができるようにしています。

- ・他人とちがうことは、こわいことではなく、自分のたからもの
- ・ちがいを知ることを楽しんでね！
- ・手話を楽しく学んでね！

2026年6月25日(木)

映像教材について

oioiさんに来ていただいたあとに、映像教材を使った学習をしました。

oioiさんとのワークショップで学習したあとだったので、難聴者がどこでどのように困るのか、自分たちの力で見つけることができていました。

課題：日常につなげる

ゲストの方に来ていただいた直後は意識が高まるが、その後の継続が課題。

障害をはじめ、様々な背景を持った人が、
「いて当たり前」の環境をどう作るか

※本校の児童や保護者の中には、障害のある人など、様々な背景を持った人がいますが、もっと広げたいです。